

11月5日  
11月6日

# 東京文化財ウィーク 2022 特別公開 登録有形文化財旧赤羽台団地スターハウス等4住棟【見学会】 公開・展示会場 MAP

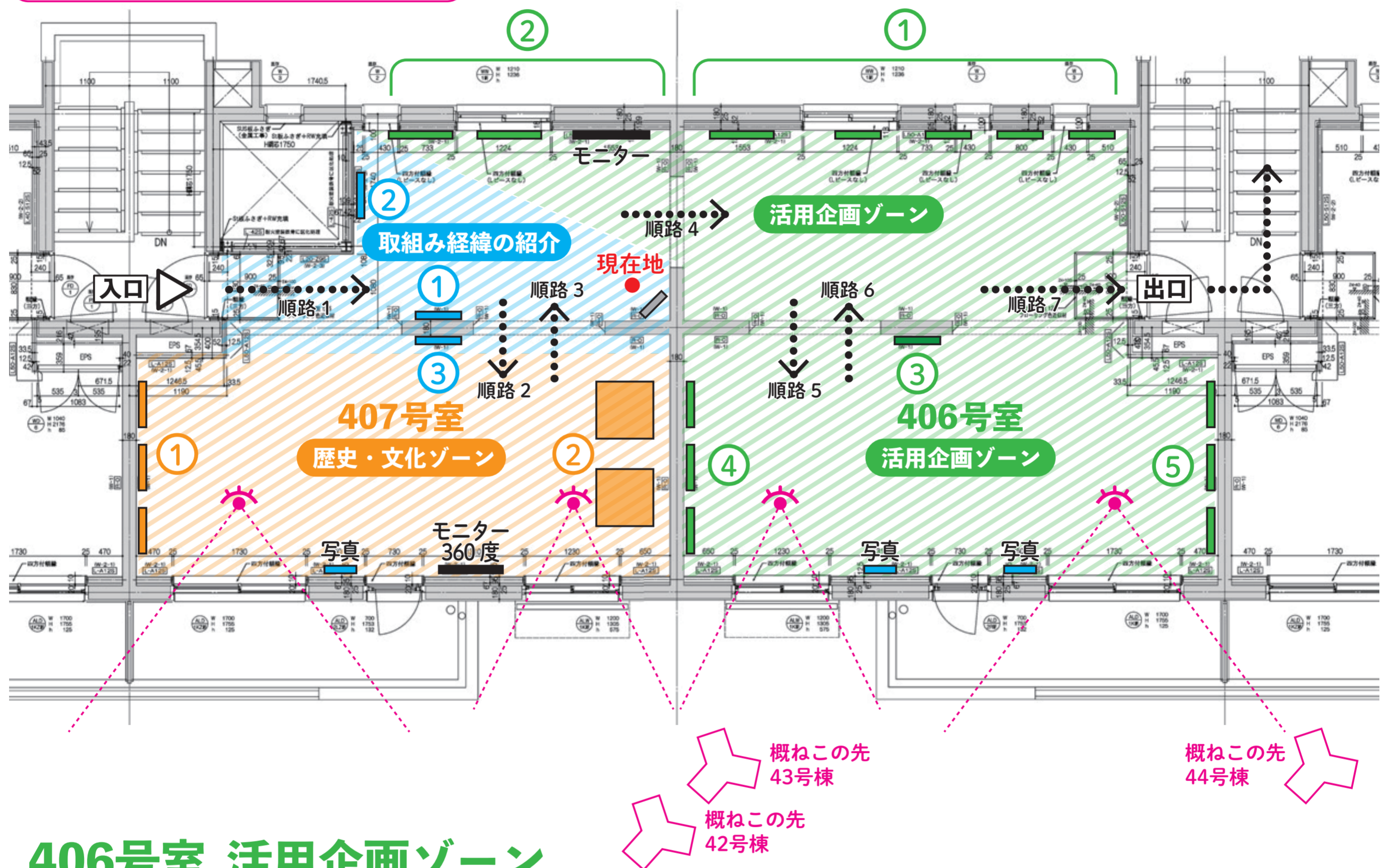
## 407号室 取組み経緯の紹介

- ① 団地初の登録有形文化財
- ② 住棟の保存活用の取組み
- ③ 旧赤羽台団地

## 407号室 歴史・文化ゾーン

- ① スターハウス 戦後昭和の団地遺産 (東京工芸大学 / 海老澤模奈人)  
スターハウスの成立と発案者 / スターハウスの特徴 / スターハウスの現在、などについて展示
- ② 1/30 建設当時住戸模型 (東京理科大学 / 栢木まどか研究室・熊谷亮平研究室)  
建設当時の住戸を 1/30 スケール模型で再現。

 スターハウスビューポイント



## 406号室 活用企画ゾーン

「スターハウスの再生と地域コミュニティが繋がる建築・場づくりの可能性」

赤羽台団地の建替えに伴い、スターハウスを含む4棟の保存活用が決まり、国の登録有形文化財への登録を経て、当初の外観を再現し保存活用することになった。東京都の文化財ウィークの開催に合わせて、まだ改修工事中の現地で行われる本展示会では、来年9月の『URまちとくらしのミュージアム』開館を前に、スターハウスを見下ろす旧赤羽台団地の改修工事途中の住棟において、団地における建築・場づくりの可能性について考えるために、様々な4つの角度から、スターハウスと地域コミュニティの可能性について考えたい。

- ① スターハウスコンペ「受賞作品展示会」
- ② 「最優秀案 スタディプロセスと実装に向けて」(日本大学 / 井本佐保里研究室)  
最優秀を受賞した洲崎洋輔(洲崎洋輔建築設計事務所)・寺田彩瑛子(KAJIMA DESIGN)へのインタビュー企画。初期案から現状までの経緯及び記録を公開
- ③ 「文化財としての団地活用の可能性と課題」(東京理科大学 / 熊谷亮平研究室)  
登録有形文化財となった赤羽台団地のスターハウスと板状住棟を合わせて、有効に活用しながら保存するあり方の検討を進めている。これからの活用の議論を深めるために、赤羽台団地の活用上の可能性と課題を検討・展示
- ④ 「まちと学ぶ 団地大学」 (宮崎晃吉 / HAGI STUDIO Inc.)  
赤羽台団地の活用を検討する過程で誕生した「団地大学」という学びと創発の場について、そのコンセプトと可能性を展示
- ⑤ 「今、全国で動き出したコミュニティ・アセットによる地域再生」 (千葉工業大学 / 田島則行研究室)  
団地だけでなく、今、全国に広がるコミュニティのための建築・場づくりの事例を多く提示し、その可能性を問う